

校内研修①

特別支援教育の視点による 児童生徒理解の充実 【講義・演習】

令和2年 月 日()
釜石市立 小学校

本日の流れ

①はじめに

- ・校内研修の流れ
- ・学級(学校)の子どもをイメージ
- ・これまでの取組について

②疑似体験

- ・「子どもの視点」で困難さを捉える

③まとめ

- ・「困難さ」が継続すること
- ・「子どもの視点に立つ」ということ
- ・児童生徒理解の一層の充実のために

校内研修の流れ

I. 校内研修①【講義・演習】

・「子どもの視点に立つ」

研修内容を踏まえた授業実践

・「子どもの視点に立つ」ことを意識した実態把握



II. 校内研修②【協議】

・「気づき」の共有

①はじめに

学級(学校)の子どもをイメージ

あなたの指導している学級(学校)には、
学習上又は生活上において、
困難さのある子どもはいますか？

文部科学省の調査(H24)では、

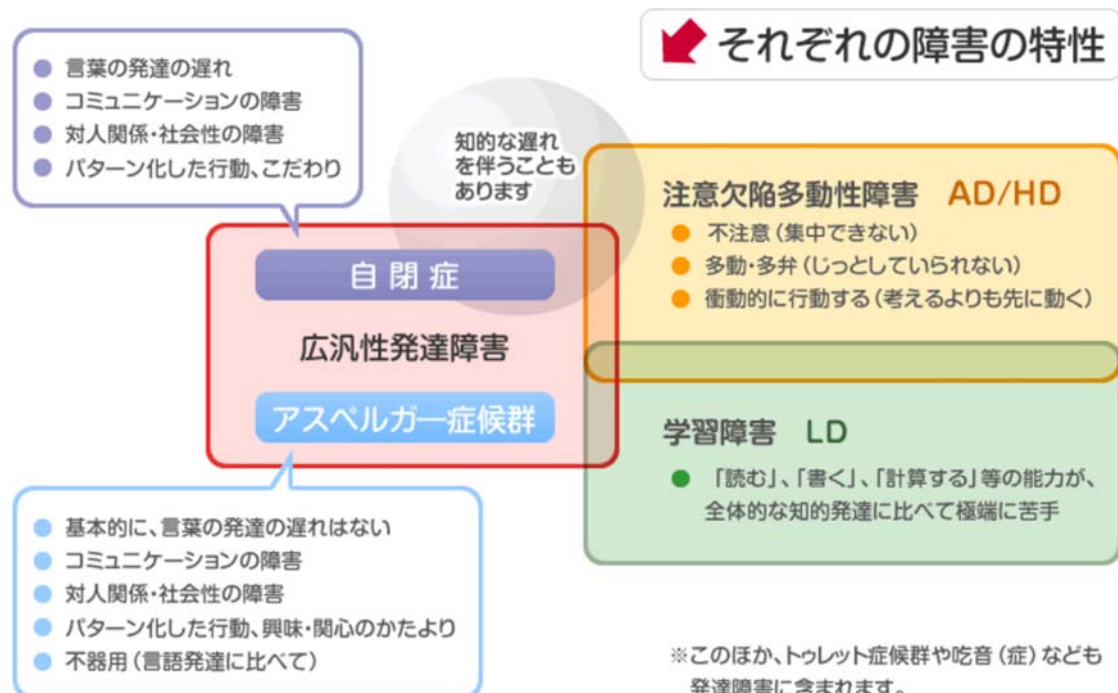
6.5%在籍(通常の学級)

新学習指導要領にも、

※小学校学習指導要領解説総則編
(H29、7)一部抜粋

通常の学級にも、障害のある児童のみならず、教育上特別の支援を必要とする児童が在籍している可能性があることを前提に

様々な特性



大人の視点



子どもの視点

②疑似体験

疑似体験(理解すること)

新聞の方が雑誌よりいい。町中より海岸の方が場所としていい。最初は歩くより走る方がいい。何度もトライしなくてはならないだろう。ちょっとしたコツがあるが、つかむのは易しい。小さな子どもでも楽しめる。一度成功すると面倒は少ない。鳥が近づきすぎることはめったにない。ただ、雨はすぐにしみ込む。多すぎる人がこれをいっせいにやると面倒がおきる。一つについてかなりのスペースがある。面倒がなければのどかなものである。石はアンカーがわりに使える。ゆるんでもものがとれたりすると、それでおわりである。

ブランスフィールドらの心理学実験1972

「わかったつもり」光文社新書 西林克彦2005から

疑似体験(理解すること)

たこについて



新聞の方が雑誌よりいい。町中より海岸の方が場所としていい。最初は歩くより走る方がいい。何度もトライしなくてはならないだろう。ちょっとしたコツがあるが、つかむのは易しい。小さな子どもでも楽しめる。一度成功すると面倒は少ない。鳥が近づきすぎることはめったにない。ただ、雨はすぐにしみ込む。多すぎる人がこれをいっせいにやると面倒がおきる。一つについてかなりのスペースがある。面倒がなければのどかなものである。石はアンカーがわりに使える。ゆるんでもものがとれたりすると、それでおわりである。

ブランスフィールドらの心理学実験1972

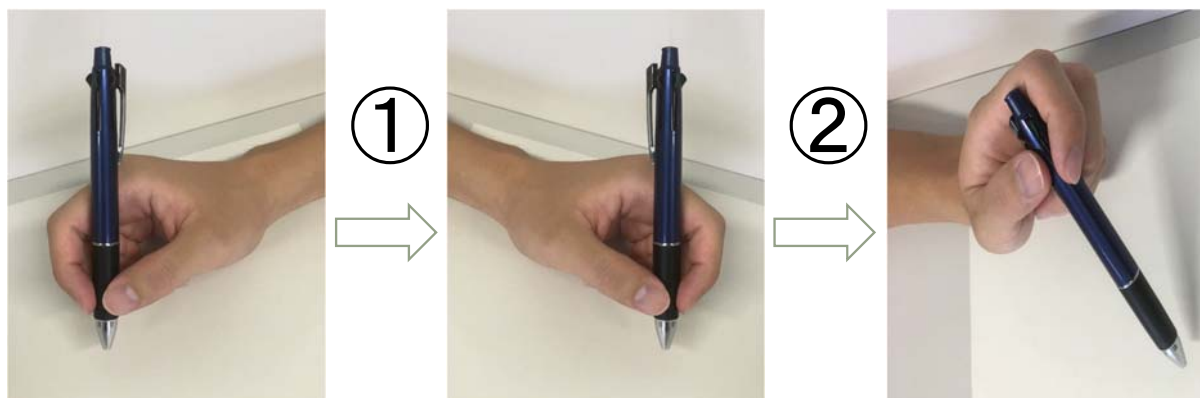
「わかったつもり」光文社新書 西林克彦2005から

疑似体験(手先の不器用さ)

①利き手ではない手で記入

②鉛筆の上部をもつ

【右利きの場合】



疑似体験(手先の不器用さ)

名前	
性別	
居住地域 (市町)	
今学期 抱負	

疑似体験(手先の不器用さ)

名前	
性別	男 ・ 女
居住地域 (市町)	釜石市 大槌町 遠野市 大船渡市 その他()
今学期 抱負	

疑似体験(衝動性)

●文字の色を声に出す。

(例)

あか

→

あお

あか

→

みどり

あか

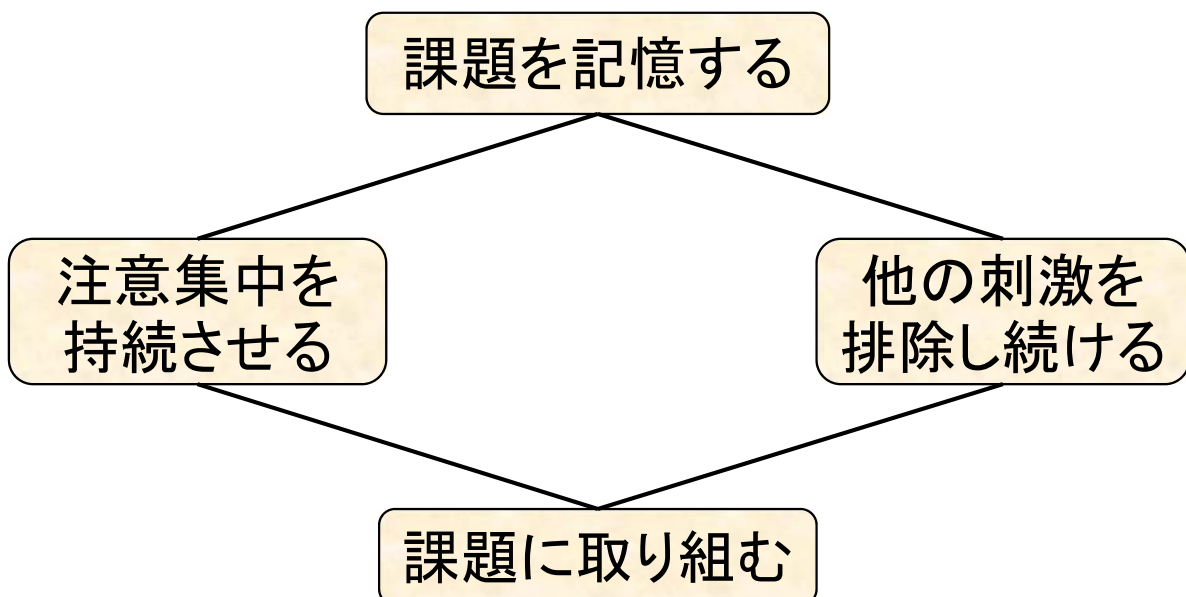
→

きいろ

疑似体験(衝動性)

あか あお あか きいろ みどり
みどり きいろ あか みどり あお
あお あお きいろ きいろ みどり
みどり みどり あか きいろ あお
あか あか きいろ あお みどり
きいろ あか あお きいろ あか

課題に取り組むということ



疑似体験(聴覚)

①聴覚過敏

【思ったこと・感じたこと】

②原音

【思ったこと・感じたこと】

聴覚過敏があると、カクテルパーティー効果が得られづらくなる



疑似体験(授業)

授業場面における視覚情報

- ・チョーク使用の統一
- ・提示カードの利用
- ・時間の見通し(タイマー使用)
- ・具体物やICTの活用

等

協調する第3ステージ ～仲間の良さを認め合おう～

発泡スチロールと鉄
どっちが重い？

予想

て:19人

ス:3人



重さを比べるとき、どんな条件に気をつける？

同じ大きさにする
量を同じにする

形を同じにする
体積を同じにする

問い 発泡スチロールと鉄
どちらが重い？



個人 【自分の考え】

<予想>

鉄 19人

スチロール 3人



課題

重さを比べるときには、
どのような条件が必要か？



集団 【みんなの考え】



全体 同じ大きさにする
形
量

体積を同じにする

「困難さ」があるということ

- 分かってても声に出さない
- 分かった人から座る

ある

なし

二つの笑顔



③まとめ

「困難さ」が継続すること

- やる気の問題や努力不足という否定的評価
- 注意や叱責の繰り返し
- 失敗やつまずきの経験の繰り返し



- ストレスや不安感の高まり
- 自信や意欲の低下
- 自己評価や自尊感情の低下



反社会的な行動、集団からの逸脱、不登校等

「子どもの視点に立つ」ということ

「困難さ」を知る

+

「困難さ」が継続している
心理を知る

特別支援教育の視点

「学習上又は生活上の困難さがある児童生徒には、周囲の理解と支援が必要であり、一人一人に応じた適切な関わりによって、その困難さが改善するかもしれない」という見方や考え方

すべての学級で対応する必要性

【文部科学省の調査】(H24)
発達障害の可能性のある特別な教育
的支援を必要とする児童生徒の割合
全国の調査結果 6.5%

次回の研修に向けて

【実態把握及び実践】 月 日()～

・「子どもの視点に立つ」ことを意識した実態把握、実践

校内研修②【協議】 月 日()

・「気づき」(実態把握した児童生徒の姿)の共有

今日、「子どもの視点に立つ」ことで得た理解を、
実際の子どもの姿と重ね合わせてみましょう。

その「気づき」が、
次回の研修で大切になります。

情報共有シート記入例

【学習】 ・読み、書き、話す、聞く ・字形、計算、推論 ・姿勢の保持(揺れ、傾き、等) ・教科の好き、嫌い ・集中、意欲の続く場面 ・座席の位置 ・手先の動き(道具の使用) 等	【生活】 ・提出物や忘れ物 ・好きなこと、嫌いなこと ・得意なこと、不得意なこと ・学校での役割 ・支度、片付け(ロッカー、机の中等) ・気持ちの切り替え(時間の切り替え) 等
【人とのかかわり】 ・交友関係 ・距離感 ・言葉遣い ・挨拶 ・感情のコントロール ・協調性 ・話のつじつま ・声の大きさの調整 ・アイコンタクト 等	【その他(家庭や学校外の情報)】 ・習い事 ・放課後の過ごし方 ・家庭での様子 等

特別支援教育で大切なこと

1人の、100歩より、
 100人の、1歩が
 子どもを支える